



# 金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和3年 2月4日  
福島市立金谷川小学校  
児童数 81名  
校長 宍戸 与一

## 寒風の中で

冷たい寒風に当たりながらも、子どもたちは毎日元気登校！！（中には眠そうな表情の子どもも見られますが…）

横断歩道では、止まってくれた運転手さんへ、感謝を表す子どもの姿を目にし、体の芯を凍えさせるような寒風が、少し柔らかく感じられることもあります。

「止まってくれてありがとうございます」という子どもたちの行為。その受け止めが多様であることに、かつてショックを受けたことがあります。その学校の在校生にとって、横断後にお辞儀をする姿は先輩の姿を真似ながら取り組んできた行為であり、ごく日常的なものでした。そんな取組に運転者の方からは、『ありがとう』が詰まって好ましいとの声が寄せられました。一方で、“立ち止まってお辞儀されたら邪魔だし危ないし、さっさと歩けと思います”といった辛らつな声も寄せられました。

様々な受け止めに、学校も悩みました。また、寄せられた声を踏まえ、誇りさえももちながら日常継続していた子どもたちに一体どのように指導していけばよいかと、思いも乱れたことを覚えています。

子どもたちもやがて免許を取得し車を運転するときに訪れるでしょう。そして、運転者として、横断しようと立ち止まる子ども等を目にする場面にも遭遇することでしょう。

そんな未来の場面、寒風の中でもお辞儀で感謝を伝えた子どもは、「小学生の時、横断待ちで立っていたら、車を止め渡してくれた運転手さんがいたっけなあ〜。冷たい風が吹く朝だっただけに、あの時はとてもうれしかったなあ」と、幼い日の自分を重ねて車を止める運転者、そして他者を気遣う心優しい大人へときっと成長を遂げて、臨んでいることと信じています。



### さらに気を引き締めて・・・

新型コロナウイルスの感染拡大、減少の兆しが見られるとはいっても、ここで気を緩めてしまうわけにはいきません。“予防していたけど感染してしまった”は仕方がないと思いますが、“予防もせずに感染した”という事態は、集団で生活するうえで避けなければなりません。学校でも、引き続き対策を講じてまいります。今後とも、ご家庭のご理解ご協力をお願いいたします。

### もう一度、念を押しておきたい大切なこと

子どもたち、私たちみんなが、新型コロナウイルスに関連したいじめや誹謗・中傷を許さないことです。不自由な生活が続いて、心の余裕がなくなり、他人に対する思いやりが減っているのではと懸念されます。正しい感染防止対策を取りますが、心は常に相手に寄り添い、思いやりをもって接してほしいと願っています。